

近森リハビリテーション病院 言語療法科

科長 矢野 和美

はじめに

2025 年は、前年後半でのスタッフ退職と長期休暇取得が複数重なり、入院配属 13 名、外来配属 3 名（科長・科長補佐含む）で、特に入院部門はここ数年の内ではかなり厳しい人員でのスタートとなった。4 階病棟は、東ユニット閉鎖継続に伴い配属は 1 名、その他の病棟は 4 名配属となり、人員減への対応として、引き続き前年 12 月からの週 6 稼働体制を継続した。

4 月に 2 名の新入職員と 8 月に長期休暇から復帰したスタッフが加わり、4 階を除く全てのフロアを 5 名配属にそろえることができた。

業務・運営

1. 実績

入院・外来における言語聴覚療法の月別実施単位数を図 1 と図 2 に、摂食機能療法（入院）の月別実施件数を図 3 に示す。

入院部門では、病床稼働率の低下と運動器疾患患者の増加が直接 ST の対象患者数減に繋がるが、患者数が伸び悩む時期には、摂食機能療法の処方数増加にはたらきかけるなど収益が下がりすぎないように対応した。

外来部門は、外部機関を交えた担当者会など関係各所と連絡を取り、社会参加に繋げる取り組みを今年も行った。

2. 嚥下障害の臨床

嚥下障害の訓練として、低周波刺激装置（バイタルスティム）と干渉電流型低周波治療器（ジェントルスティム）の使用は計画的に行い、データの蓄積に努めた。

3. 教育

新人教育では、現場の負担を考慮し、臨床ですぐに必要な検査についての実技演習を別枠の時間で行った。

そのほか、高知リハビリテーション専門職大学の石川裕治教授によるスタッフへの臨床指導（週 1 回）を今年も継続した。

おわりに

今後は業務の効率化のみならず、成果を明確に出していく必要があり、スタッフ個々の質の担保が課題となる。来年はその点に力を注ぎたいと考えている。

図1. 2025年 言語聴覚療法実施単位数（入院）

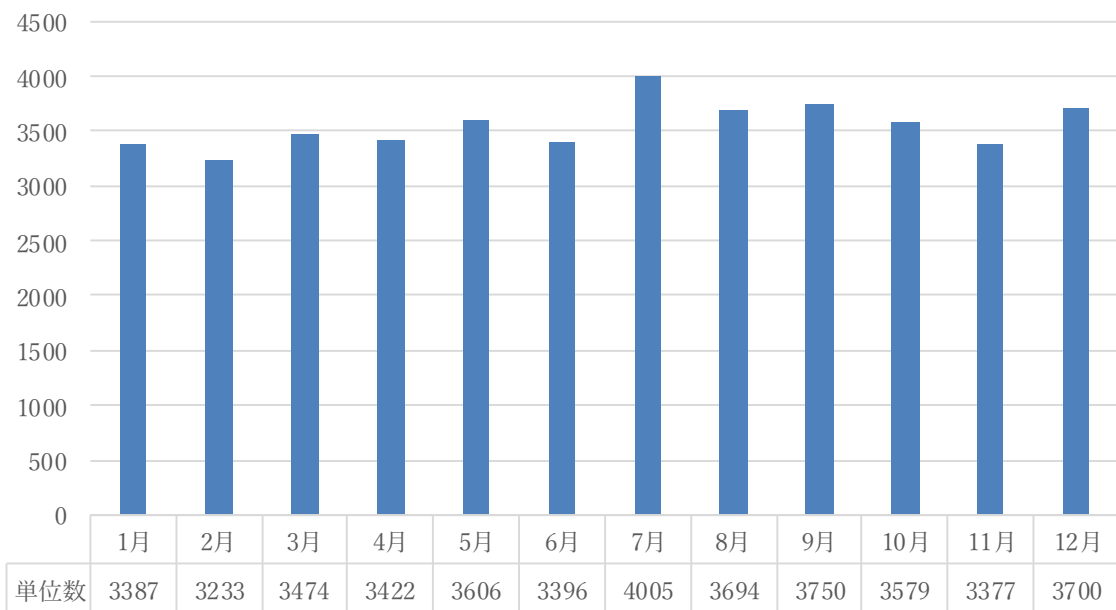


図2. 2025年言語聴覚療法実施単位数（外来）

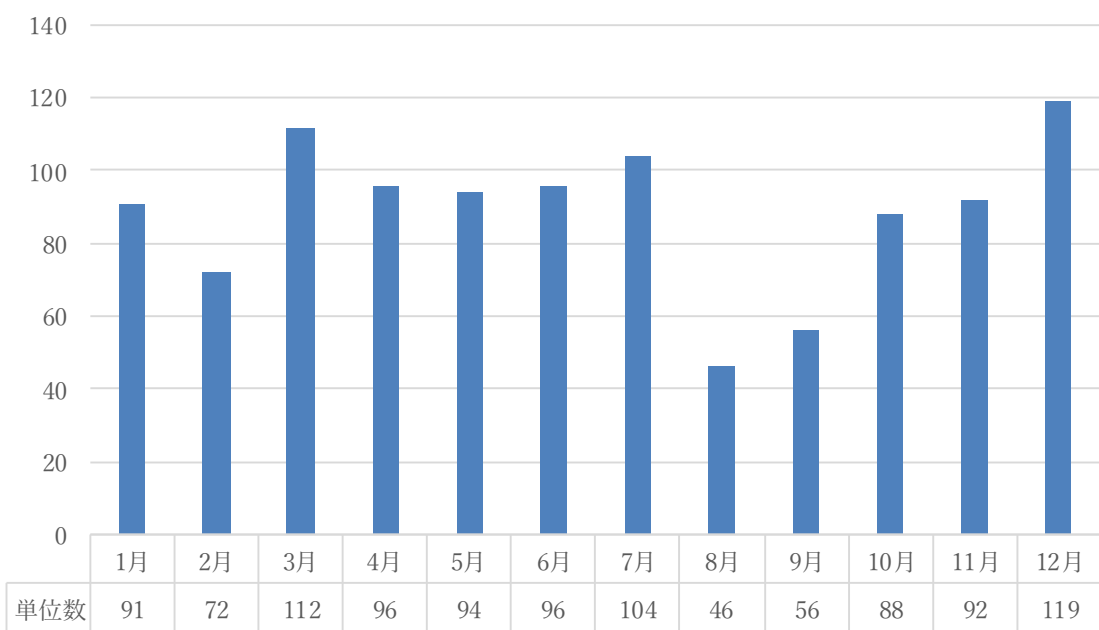
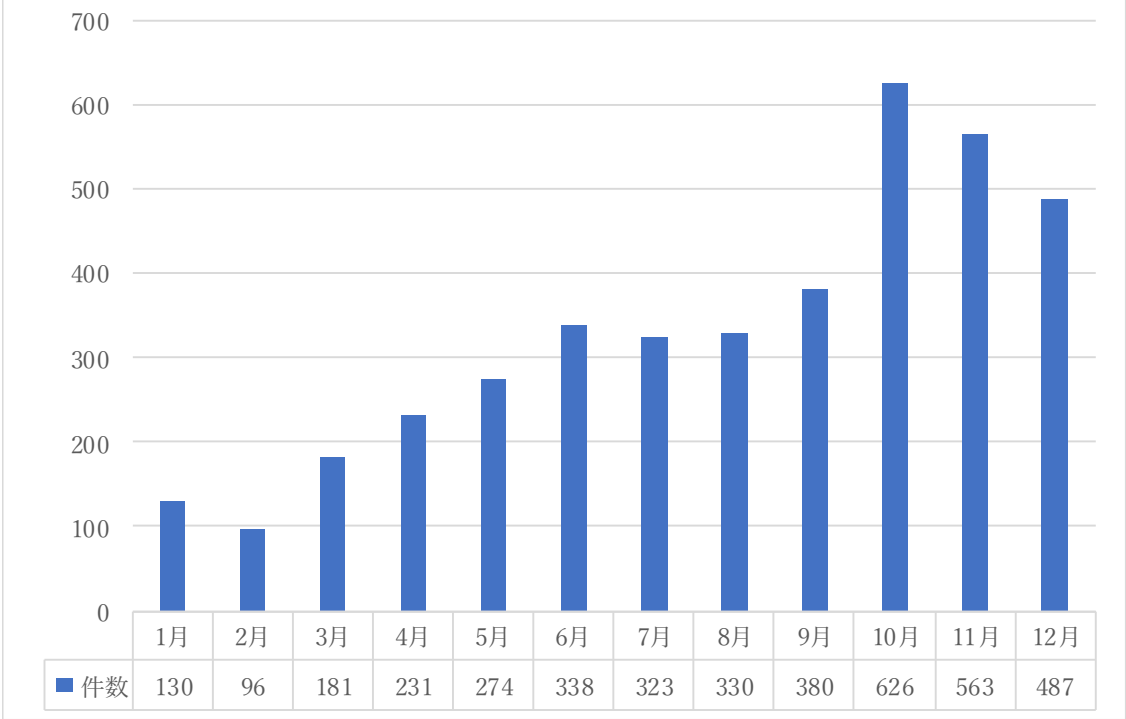


図3. 2025年 摂食機能療法実施件数（入院）



学術発表・講演会等

学会発表

演題	発表者 共同研究者	学会名	開催
回復期における摂食嚥下リハビリテーションに関する効果の確認方法についての検討	橘愛 矢野和美	第28回日本脳神経外科学会	7月19日～ 20日 高知
軽度嚥下障害患者の水分トロミの有無を決定する過程における支援上の課題～倫理4原則からの検討～	山下怜花 大石亜祐実、八井田明子、横畠史佳、矢野和美	第28回高知県言語聴覚学会	2026年2月 22日
家庭訪問で日常を知ることができた重度失語症の一症例	田中良、岩崎雅子、横畠史佳、矢野和美	第28回高知県言語聴覚学会	2026年2月 22日